

# 築地体一号太仮名

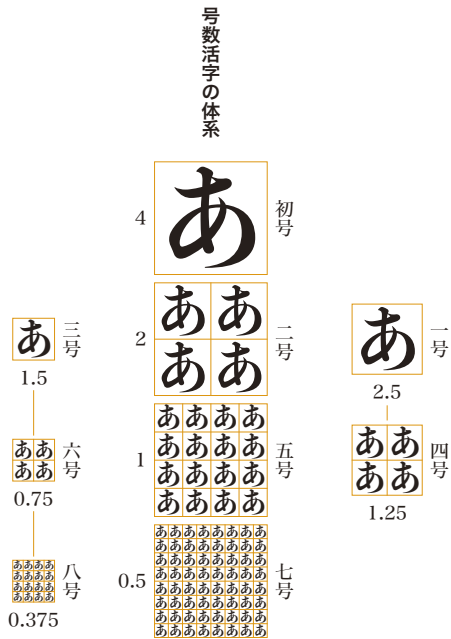
ちよっと泥臭い、しかし運筆の美しさは心地よい

小宮山博史

一号は号数制活字として初号につぐ大きさです。株式会社モトヤが昭和四二（一九六七）年に刊行した活字見本帳『活字書体』に掲載している「活字寸法表」では角寸法は九・六六五ミリですが、これは二七・五ポイント相当で、一ポイント〇・三五一四ミリで計算したものです。明治初期の一号は連載

第一回に書きましたが、Double Pica 二四ポイント相当で、印刷物からの計測では角寸法八・六五ミリで現在の一号の寸法とは違います。正確な年代ははっきりしませんが、上海から導入した活字サイズのうち五号、四号、三号をもとにしてその他の活字サイズを倍数関係が合うように直していったのが、今も細々ではありますが使われている号数制サイズです。<sup>☆註四一</sup>しかし明治初期の活字についての正確な測定データは無く、それぞれのサイズは残念ながらわかりません。

この築地体一号太仮名は明治三六（一九〇三）年一月刊『東京築地活版製造所活版見本』の中の見本から覆刻してあります。同活版見本の「一号片平仮名書体見本」には覆刻した太仮名の他に細い平仮名が掲載されています。漢字仮名交り組み見本は太仮名を使っており堂々とした組版を見せています。<sup>★図二九</sup>たぶん細仮名が漢字と組み合わせる正規の仮名だと思われれます



☆註四一……活字の基準寸法 日本工業規格 JIS Z 8305-1:1962 は、はじめて活字の基準寸法を規定したものである（ただし新聞活字は適用されない）。この中に記載された寸法表には明治初年以降使用が続けられてきた「号数制」の号数表記は無く、各号数に相当するポイント（右に示す）を右に示して表記している。しかし「備考」欄には「なるべく使用しないものとする」と書いている。

JIS規格は、並行して使用されている「ポイント制」と「号数制」を整理し、ポイント数値で表記している。解説では「号数制活字のうち、四号（25.75ポイント）および一号（21.25ポイント）は基本活字である五号（20.00ポイント）と倍数関係が合わないため、これを廃止し、それに代えて13.125ポイント（従来の新四号）および26.25ポイント（従来の新一号）を新たに設けた」とある。

右下＝上海活字規格は印刷物からの実測値である。活字の実測データが記録されたのは、明治四二

（一九〇九）年一月韓国政府印刷局の技手高木徳太郎が築地活版の二号以下七号までをポイント計器で測定し、韓国龍山印刷局刊行の『印刷術』に発表したものが最初ではないか。

昭和二（一九二七）年六月刊行の矢野道也『印刷術発達史』（大阪出版社）には、東京大阪の活字製造所五社の活字の大きさ・幅・高さの測定値が掲載されているが、大きさのばらつきが目立つ。各社によって大きさ・幅・高さが異なることは、号数制の活字サイズに明確な規格が伝わっておらず、先行鋳造所の寸法に倣ったこと他に、営業方針から他社の寸法と差をつけて他社の活字と混ぜて組み立てようにするということもあったのではないかとと思われる。

余談ながら「印刷術発達史」を印刷したのは谷口黙次の谷口印刷所だが、谷口黙次は本木昌造が明治三（一八七〇）年大阪に長崎新塾出張大阪活版所を作ったとき、派遣された一人である。

▼従来の号数寸法 (単位 mm)	▼JIS 規格 (単位 mm)	▼上海活字規格 (単位 mm)
初号……………14.76		一号……………8.65
一号…………… 9.665	新一号……………9.224	二号……………7.61
二号…………… 7.379		三号……………5.6
三号…………… 5.536		四号……………4.85
四号…………… 4.832	新四号……………4.612	五号……………3.72
五号…………… 3.690		六号……………2.8
六号…………… 2.767		
七号…………… 1.845		
八号…………… 1.384		

が、漢字にたいして細すぎるため何も指定しなければこの太仮名のほうを使っていたようです。片仮名は活版見本には全文字掲載されていませんので、無い字は築地活版の一号活字を使っている金沢の宝文堂活版製造販売所の『明朝風一号活字摘要録』から覆刻してあります。この宝文堂の見本帳は大正五（一九一六）年三月の印刷です。

一号活字の制作時期は不明ですが、『かなしんぶん』第一号（かなのくわい、明治一八年七月）には築地活版の広告が掲載されていますが、それによると

明朝体活字ハ二号ヨリ六号ニ至マデ全備致シ（略）壹号七号漢字不足ノ分ハ目下製造中也

とあり、一号は漢字字種が不足しており完品でないことがわかります。一号サイズであれば漢字字種は多くても四、〇〇〇字程度のはずですが、上海から漢字活字を導入して一六年がすぎた明治一八（一八八五）年でもまだ新刻の漢字は揃ってはいないようですが、仮名はあるいはできていたかもしれません。仮名の制作時期は明治一八年頃としてもそれほど間違っていないと思います。見本帳を見ますと二号太仮名もこの字形ですので一号太仮名と同じ彫り師によって彫られたことがわかります。ただ字形が洗練されていなくて、一号より前に作られたものでしょう。

現在までに作られた大型サイズの平仮名でもっとも個性的な字形を持つのは秀英舎（現大日本印刷株式会社。株式会社写研の写植書体）「秀英明朝SHM」は秀英舎初号（★図三〇）の覆刻）ですが、明治一八年頃は秀英舎は築地活版から活字を入手しており、まだ自社独自の書体を開発し

★築地体一号太仮名（三七級）

あめつちほし  
 そらやまかは  
 みねたにくも  
 きりむろこけ  
 ひどいぬらへ  
 すゑゆあさる  
 アメツチホシ  
 ソラヤマカハ  
 ミネタニクモ  
 キリムロコケ  
 ヒトイヌウヘ  
 スエユワサル

ておりません。この一号太仮名は毛筆手書きと活字として定型化をめざす間で揺れ動く字形を見せています。

では築地体一号太仮名の長短はなにか。それは秀英仮名より正方への指向が強く、しかし手書きの運筆を色濃く残していることでしょうか。築地体初号、三五ポイント仮名と比べてみるとわかりますが、ほとんどの文字に脈絡を残しています。秀英仮名よりもはるかに多い。そして築地活版の平仮名書体の中では個性が強い書体ですが、秀英舎仮名ほど強い個性を持っていませんから、組み合わせる漢字書体で悩むことはないのではないかと思います。秀英舎仮名ですとあの曲線を多用したでっぶりとした漢字書体でないどころも合いませんが、築地体一号太仮名はもっと使いやすいくです。あまり使われてはおりませんが、きっと面白い文字組みが作れるのではないのでしょうか。

◎組版仕様

書体=ヒラギノ明朝 Std W5 (漢字・欧文・アラビア数字) + 築地体一号太仮名 (仮名, 「日本の活字書体名作精選」より)

見出し=サイズ: 60 級/本文 (p.112)=サイズ: 37 級, 字送り: 46.25 階, 行送り: 55.5 階

本文 (p.113~p.115)=サイズ: 16 級, 字送り: 20 階, 行送り: 30 階, 1 行: 33 字詰め・22 行

◎発行=大日本スクリーン製造株式会社 ◎デザイン・組版=向井裕一 (gymh)

(2005.03.18)

★築地体初号仮名 (三七級)

あめつちほし  
そらやまかは  
みねたにくも  
きりむろこけ  
ひどいぬうへ  
すゑゆわさる

★築地体三五ポイント仮名 (三七級)

あめつちほし  
そらやまかは  
みねたにくも  
きりむろこけ  
ひどいぬうへ  
すゑゆわさる

壹號明朝書體見本 (TWO LINE ENGLISH BODY)

漢土文明最舊矣造文字制圖畫三  
 千年于此殷末周初制度文物既極  
 其盛火藥之技印書之術致知文物  
 之學仁義道德之教其濫觴先於西  
 洋諸國概數百年西人推爲開化之  
 泉源世界最古之文明國非偶然也  
 西洋諸國有今日之隆盛可謂有與  
 力焉

★圖二九一……「東京築地活版製作所活版見本」(明治三十六年一月刊) 掲載の漢字両仮名組見本。  
 掲載の二号見本は、漢字組見本一頁、片平仮名見本一頁、漢字両仮名組見本一頁の三頁である。





★圖二九二……「東京築地活版製版所活版見本」(明治三六年一月刊)掲載の片平假名見本。

壹號明朝假名交り書體見本 (TWO LINE ENGLISH BODY)

鐵道延長して陸運茲に開け船舶  
 増加して海運茲に熾んなり海  
 陸運輸交通の途完全して富國強  
 兵亦望むべし

然リト雖モ鐵道ノ延長汽船ノ増  
 加モ我産業ノ發達ト並行セザレ  
 バ夫レ何ニ由テカ其効果ヲ収ム  
 ルヲ得ンヤ

★圖一九三……「東京築地活版製作所活版見本」(明治三十六年一月刊)掲載の漢字兩假名組見本。漢字平假名の組見本は太假名を使っていることに注目したい。

意	惑	息	恍	忿	心
愕	惜	悅	恐	怒	必
愚	惠	悉	恕	怖	忌
愛	惡	悔	恢	思	忍
感	惱	悟	恣	怠	志
愧	想	患	恤	急	忘
慎	惟	悲	恨	性	忠
慤	愈	悼	恩	怨	快
慈	愍	情	恭	怪	念

十六 芥川龍之介

★図三〇―一……秀英舎鑄造部製文堂「明朝初号活字見本」(明治三六年九月刊)収録の両仮名見本と漢字。築地活版の漢字・両仮名の書風と大きく異なっていることがわかる。特に曲線を多用する漢字の構成と毛筆手書きの味を色濃く残す平仮名の書風が特長である。



ク ヤ マ ケ フ コ エ テ ア  
サ キ ュ メ ミ シ エ ヒ モ  
セ ス ン 、 バ ー 々  
ガ ギ グ ゲ ゴ ザ ジ ズ ゼ  
ゾ ダ チ ツ テ ド バ ビ ブ  
ベ ボ パ ピ プ ペ ホ ヴ

五十四

新用身道月鏡才堂

いろはにほへとちり  
ぬるをわかよたれそ  
つねならむうるのお  
くやまけふこえてあ  
さきゆめみしゑひも  
せすん

五十五

舌又叟舌斤叟とぎ